

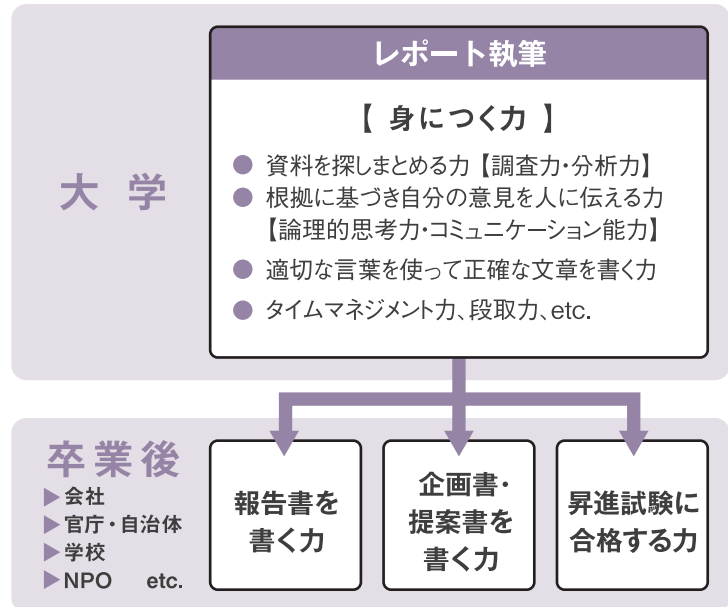
レポートを書くあなたへ

1 「書く力」は社会を生き抜く武器!

大学を出て社会人として活躍する上で、また、就職活動においても、「書く力」は必須のものです。文字を使って何かを伝えるということは、「話す」と同じように、大切なコミュニケーションの手段です。だからこそ、大学では書く訓練をするのです。それがレポートの執筆です。

一言で書く力といっても、レポート執筆によって身につく力は、右の図のように、さまざまな要素を含みます。

大学を卒業し、一旦仕事を始めれば、文章の書き方を教わる機会はほとんどありません。大学にいる今こそ、書く力を身につける最後のチャンスです。



2 いきなり書き始めない! レポート課題を吟味しよう

レポート課題を分類すると、代表的なものは以下の4つになります。レポート執筆で最初にすべきことは、あなたが書かなくてはならないレポートの種類がどれかを確認することです。

Master of Writingでは、1の自分で調べて考えて書くレポートを想定して解説を行っています。

1 自分で調べて考えて書くレポート

集めた資料を根拠として、自分の主張を論理的に述べる(論証する)レポートです。

2 整理・まとめ型のレポート

集めた資料や授業内容を整理・説明するレポートです。

3 ブックレポート

文献が指定され、その要約や、内容に対する意見等を述べるレポートです。指定文献をどの程度理解しているかが問われるという点で、理解確認型のレポートともいえます。

4 実験・実習・フィールドワーク等で得たデータをまとめて考察するレポート

では、あなたが書くレポートが上記の1だったとします。何から始めますか?

課題文の中にある言葉や頭に浮かんだ言葉を、いきなりインターネットで調べてもレポートは書けません。

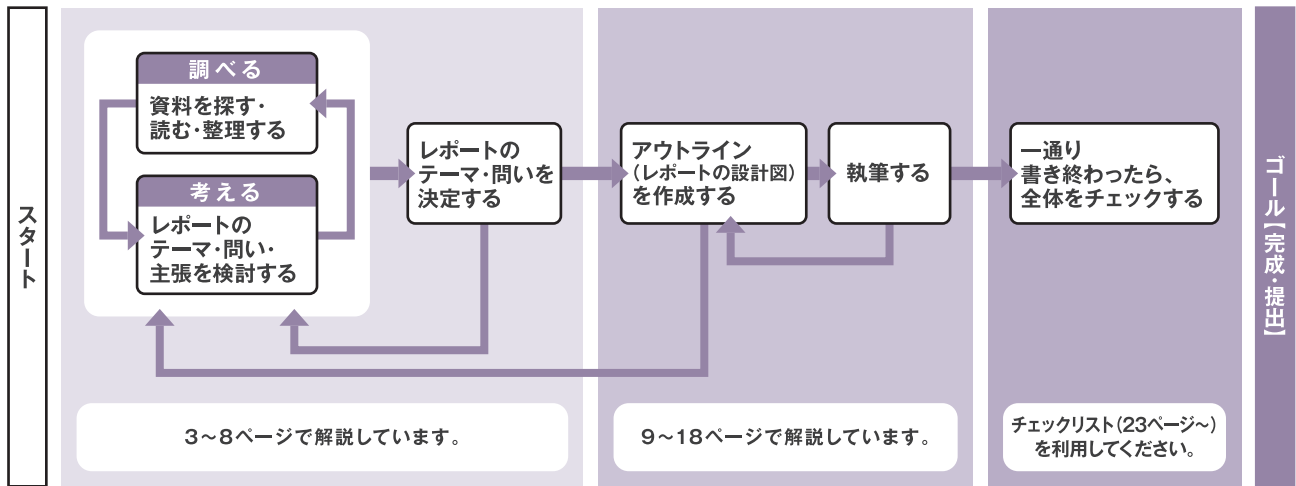
まず、そのレポート課題が出題された意図や趣旨を考え、何を問われているのか、そして何を書けばいいのかをはっきりさせておくことが重要です。

通常、先生は授業内容と無関係にレポート課題を出したりはしません。「テーマの選択は自由」という場合も同じです。課題が出た授業で学んでいる内容と照らし合わせて、書くべき内容を考えてください。もしどうしても分からなければ、先生に直接質問しましょう。

3 スタートからゴールまでの道のりを理解し、タイムマネジメントをしよう!

書くべきレポートの種類が決まったら、レポート執筆のスケジュールを立てます。

自分で調べて考えて書くレポートの場合を想定すると、完成までの流れは下の図のようになります。この図に示されているとおり、レポート完成というゴールは遠く、レポートを書きあげるまでには思ったよりも時間がかかります。



「レポートなんて前日がんばれば何とかなる」と思ったあなた! そんなに甘くはありません。一夜漬けのレポートは先生もお見通しです。しっかり計画を立てて、余裕をもって準備してください。

4 キーワードを書き出し、整理していく

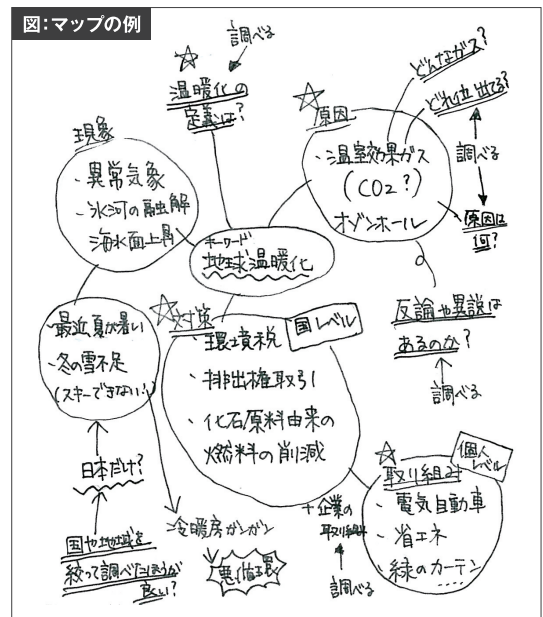
ポイントはレポート内容に関するキーワードを書き出し、整理することです。

1 まず、キーワード(重要だと思う事実、概念、自分の疑問や意見など課題に関連する事柄)を思いつくまま書き出します。資料を読みながらキーワードを加えていくことも重要です。

2 次にキーワードを並べ直して関連性を整理しましょう。(重要度、分類・関連付け、マップに配置、表作成など) (右図参照)

これらの作業をすることによって、資料の内容や自分の考えが整理され、書こうと思うレポートの骨格が見えてきます。

さあ、いよいよ皆さんはレポート執筆のスタート地点に立ちました。このMaster of Writing を片手に、よいレポートを書きあげてください。



警告!

盗用・剽窃(ひょうせつ)は不正行為として厳しく対処されます。24ページの注意事項をよく読んで、ルールを守ってレポートの執筆に臨んでください。